

第10回

男女共同参画
川柳優秀作品集



**募集を開始して10周年
たくさんの応募ありがとうございます！**



発行：キラツ☆とよた(とよた男女共同参画センター)

男女共同参画川柳優秀作品集発刊にあたって

男女共同参画社会は、誰もが女性、男性という性別にかかわらず、自分の持つ個性や能力を十分に発揮し、生き生きと活躍し、自分らしい生活を送ることができるとする社会のことです。そのためには、女性も男性も共に相手のことを尊重し、助け合っていく必要があります。

「キラッ☆とよた（とよた男女共同参画センター）」では、この男女共同参画社会実現を目指し、さまざまな事業に取り組んでいます。

その中のひとつであるこの男女共同参画川柳募集は、身近な生活の中にあるジェンダーや男女共同参画について考えていただきたいという思いを込めて毎年実施しています。平成十五年より募集を開始してから今回で第十回となる今年は、1558人、2272点の作品をご応募いただきました。中学生の皆さんからの応募は2062点で、中には全校生徒で取り組んでいた学校もあり大変うれしく思います。

今回も数多くの作品が寄せられ、全ての作品を載せることができなかつたため、優秀作品集とさせていただきます。

この男女共同参画川柳優秀作品集が、今後ますます多くの皆さまの目に触れることで、女性も男性も、生き生きと豊かに暮らすことのできる男女共同参画社会の実現に近づくことができると思っています。

キラッ☆とよた（とよた男女共同参画センター）

目次

● 優秀賞	1
● 入選	4
● 審査員講評	7
● 佳作	9
● 一般の作品	12
● 中学生の作品	9

※ この作品集に記載されている内容について、
無断転写・転用はご遠慮ください。



優 秀

豊田市長賞

男子女子 合わせた力は 無限大

前林中学校

塚本 颯馬

(講評) 性別に関わらず、みんなが協力しあい、力を発揮すれば、その力は無限の可能性を秘めているよ、といった力強いメッセージが伝わってきますね。

豊田市議会議長賞

女子会か？ いえいえチーフ 会議です 斎藤 正

(講評) 「女子会」という流行語を取り入れながら、女性が責任ある立場でがんばって働く姿が目に見え、うまい！と思わせる作品です。

豊田市教育委員会賞

志望校 工業えらぶ 女子が増え 山本 有紗

末野原中学校

山本 有紗

(講評) 進学において性別による固定的な選択をしていた時代からそれらにとらわれず、自分の夢や希望を大切にして、選択する時代が変わってきていることがわかりますね。

優秀

キラツ☆とよた賞

家内・主人 歩幅合わせて 死語にする 小田中 準一

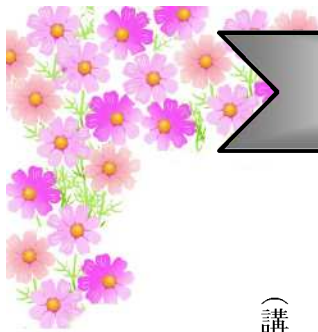
(講評) 「家内」「主人」という言葉の意味をあまり深く考えずに使っていることに気づかされる作品です。「妻」「夫」という表現が適切であることを多くの方に知ってもらいたいですね。

優秀

キラツ☆とよた賞

家事育児 男女でやろう 介護まで 小木曾 祐子

(講評) とかく男女共同参画というと、家事・育児が取り上げられますが、これからの時代、介護においても性別に関わらず女性も男性もお互いが協力して行うことが大切ですね。



優 秀

キラッ☆とよた賞

性差越え 知と技を共に 高め合う 福島 敏朗

(講評) 男女共同参画社会は、性別にとらわれることなく、各々の個性や能力を発揮できる社会のことですが、そのことを上手に川柳に詠んだ作品です。「共に」高め合い、より豊かな人生を送れるといいですね。

優 秀

キラッ☆とよた賞

頼もしい 夫の家事力 上昇中 國本 久美子

(講評) 家事力がとどまることなく、どんどん上達している夫の姿が目には浮かび、まさに「頼もしい！」と思った一句です。



入 選

いくじいか ママよりうまい おもりかな

池之上 穰一

将来の 自分は今の 積み重ね

伊藤 明音

性別の 壁が消えれば 夢増える

伊藤 駿吾

ワークシエア 家族皆で 家庭から

伊藤 万理花

目指すんだ 男女の差のない 豊田市を

宇井 新

今日は主婦 当番制で 明日は主夫

亀井 千代蔵

思い込み 捨てて育む 思いやり

佐々木 恭司



入 選

女々しくて そんな言葉は 必要か？ 柴田 壮一郎

自己決定 男女差なくす 第一歩 城山 佳穂

将来は 自分で決める 生きる社会 杉浦 星花

理解(わか)りあう 男女共同 第一歩 杉田 茉優

隔てなく 育てた子らが 作る明日 田崎 信

口ずさむ オフィス内で 子守唄 豊川 捺月

悪くしたい 格差男女差 笑顔の差 長峯 雄平



入 選

参観日 母は仕事で 父が来る

林 柚未乃

母復帰 代わりに父が 育休を

原田 望

ベランダで 服干す父も 光浴び

原田 雅之

スポーツの 男女差なくし 金メダル

本間 はるき

復帰する 妊婦の数は 豊の数は

山岡 裕喜

女子だから その一言で 決めないで

山口 咲良

弱いところ 補う我が家に 主婦と主夫

吉川 恭子



平成二十四年度のジェンダー川柳、今回の作品を眺めると四国や関西、関東地区などからの応募もあり、「キラッ☆とよた」が主催するジェンダー川柳の認知度が全国規模に拡大してきたな…と感慨深いものがありました。「男性と女性、一人ひとりの個性や能力、考え方や生き方について理解を深め、お互いに協力し合って社会を築いていく」ことを目指す男女共同参画社会がどこまで実現されてきたでしょうか。そんなことを考えながら、今回の応募作品を見てみると、ジェンダーという切り口から現在の社会状況が見えてくるように思います。

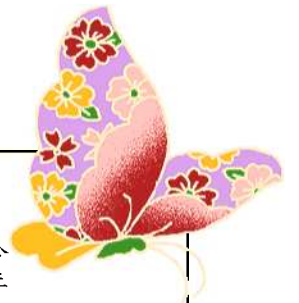
豊田市議会議長賞の作品「女子会か？ いえいえ チーフ会議です」は、女性たちが集まっておしゃべりに興じている部屋…と思いきや、そこは社内各部署リーダーたち(全員女性)が集まって会議の真っ最中だった。女性の役職者が増え、これからますますこんな風景が一般化していくかもしれません。キラッ☆とよた賞の「家事育児 男女でやろう 介護まで」は、男女が共同でやる仕事に『介護』が入ってきたことがポイントでした。また、入選の「隔てなく 育てた子らが 作る明日」、「思い込み 捨てて育む 思いやり」は、二作品とも六十代の男性によるものです。こうした思いを、ぜひ次世代がしっかり受け継いでほしいと思います。

また、佳作の「イク爺は てきばきオムツ 替えできる」、「ほめられて 妻の弁当 十四年」は、家事・育児をこなす男性たちの先輩の姿が描かれていました。さらに、「口出さず 手を貸し絆 より深く」、「先ず意識 変えて男女の 差をなくす」、「男女差を 埋めて才能 掘り起こす」は、さらりと語りながらツボをついている秀作と感心しました。

そして、今回も中学生や高校生から数多くの作品が届きました。豊田市長賞の作品「男子女子 合わせた力は 無限大」のみならず、それぞれ無限大の可能性を秘めた若い世代の力作に数多く出会えて、とてもうれしく思いました。入選や佳作に選ばれた作品の中から、私が印象に残っているものの一部を挙げたいと思います。「母復帰 代わりに父が 育休を」、「女々しくて そんな言葉は 必要か?」、「未来の僕 親を見ていると 見えてくる」、「職業に 選ばれないで 選びたい」、「父を見て 育った子どもは 家事上手」、「晩ご飯 父と作って 母を待つ」

ジェンダー川柳には、これまでも多くの優秀作品が寄せられてきました。これまでの作品を並べてみると、一つの歴史が感じられるようにも思います。ここまで継続してきた取り組みを、今後も息長く展開していくために、豊田市民をはじめ全国のジェンダー川柳ファンの皆様のご支援、ご協力をいただきますようお願いいたします。





名古屋学芸大学 准教授 吉野 まり子

今年度も多くの応募があり、着実に「男女共同参画」というテーマに対する関心が高まりつつあることを実感しています。また、生活の何気ない中で、この「男女共同参画」というテーマが話題になったり、または、観察をしながら川柳にしてみるということが、応募数の増加につながったならば、少し難しいように感じられる「男女共同参画」というものが「日常化」し始めた兆しを感じます。

豊田市長賞を受賞した作品の「男子女子 合わせた力は 無限大」は、中学生の方からの応募です。教室内での活動や学校での行事で、みんなが力を合わせて何かを成し遂げた時に感じた思いが表現されているのではないのでしょうか。男子も女子も一緒になつて、同じ目標のために協力することの大切さや、また楽しさも感じられたのでしたら、最後の「無限大」という言葉の響きから大人になった時と同じような協力の必要性を提案し続けられる人になっていただけなのではないかと、とてもうれしくなるような川柳でした。豊田市議会議長賞受賞の「女子会か？ いえいえチーフ会議です」は、まだなかなか、女性がチーフをまかされるということが、当たり前でない中で、今増えている「女子会」にかけて、その参加している女子が全員チーフという社会的地位にあるのですよ、という時代の潮流の先取りを川柳に表現している秀作だと思います。豊田教育委員会賞受賞の「志望校 工業選ぶ 女子が増え」は、これも中学生の方からの応募です。従来は、工業は男子が志望するものという伝統的な風潮からの変化を表現したもので、就職先をも見据えているようにも思えます。すでに「男女共同参画」を実践している企業や組織では、男性や女性という枠を取り払い、優秀である人材ならば、従来の「工業は男子」ではなく、誰でも採用していることをも意識した、これも時代先取りの秀作だと思います。

今後、この「男女共同参画」が、当たり前で、かつ日常的に実践されているという社会を目指して、このような川柳に込められたメッセージが、多くの共感を呼んだり、または、苦笑いとともに反省を求めたりと、さまざまな触媒となり、また親しまれながら、意識の基盤形成に寄与できることを期待しています。



佳作

(氏名五十音順)

一般の作品



定年後 次の就活 主夫の技

梅田 十子

凜と生き ぶれぬ心の 古時計

梅村 正男

夢を追う 瞳に男女の 違いなし

青柳 婦美子

気付き合おう 心で築く 男女共同参画の社会

大和田 孝志

男女差を 埋めて才能 掘り起こす

石畝 秀高

さあ乗ろう！ 老若男女もが乗れる 男女共同参画社会に

大和田 孝志

家事分担 心と時間に ゆとりでき

石畝 秀高

パパとママ いつも互いに 褒め上手

岡田 孝道

気負わずに 無理せず慌てず 意地張らず

伊藤 克明

日替わりで 支え合ってる 主婦と主夫

小田中 準一

保育園 増えて働く 夫婦増え

井上 英一

パパの味 ママの味きょう ボクの味

金子 秀重

自治会の 役員選挙 夫婦立つ

井上 英一

スーパーで ママの好物 パパが買う

河原 郁子

ほめられて 妻の弁当 十四年

久保 蔵寿

鶏呑みせず 考えそして 協力し

永田 政己

一歩でも 飛び出す勇氣が 愛を生む

坂本 智弘

性別で 区別する癖 今日、決別

埜辺 綾香

プロジェクト 皆んなで手分け 効果大

関 安彦

ありがとう その一言に 妻の愛

速水 正仁

先ず意識 変えて男女の 差をなくす

田原 智恵子

家庭内 聖域の無い ジョブ・ローテ

樋口 盛一

少子化に 男女の力で 老機突破

得能 義孝

育児休 子どもおんぶし 妻送る

樋口 盛一

うちのパパ ママに負けない 名コック

得能 義孝

人生は 自分らしくが 道標(みちしるべ)

広森 敦

まかせろと バトンを受けて パパ育児

豊田 幸代

孫くる日 足の痛みが とんで行く

森下 義明

それぞれの 差を輪でつなく 男女の和

中川 潔

主夫になり 妻に煮つけの コツを聞く

柳谷 益弘

妻は掃き 夫は磨き 子はたたく

山岡 裕喜

口出さず 手を貸し絆 より深く

吉川 智子

彼、私 二人三脚 家事炊事

吉川 智子

パパが漕ぎ ママが舵取る 家族丸

吉野 信幸

家事育児 ルールがないのが 我が家流

脇本 健治

イク爺は てきばきオムツ 替えてきる

渡辺 勇三

人(男)と人(女) 立ち位置変えて 苦楽知る

渡辺 勇三



中学生の作品

決めないで わたしはわたし きみはきみ

池野 絢詠

自分らしさ 人の数だけ あふれてる

伊藤 結香

国会に 男性議員 ばかり見え

石井 杏佳

愛ならば 母性も父性も 同じもの

伊藤 航

ちよいせまい 男2人の 台所

石田 光史

幸せの 重さも男女 平等だ

伊藤 航

深めよう ワークシエから 家族愛

石原 綾乃

育児して どんどん増えてく パパ友も

稲田 奈々花

なんだから 言われ続けて 十四年

板倉 知也

男女差で 決めつけないで 仕事量

井上 もえ

将来へ 自分らしくが 羅針盤

井戸 克

おじいちゃん ママに変わって 孫の世話

岩瀬 天音

育メンに なりきる父の 光る汗

井戸 雄二郎

対等な 立場で生きる これからも

植田 朱音

いつの日か 女性総理が 日本にも

伊藤 希

運動会 応援団長 女の子

牛丸 朋香

「女でしょ」それが何だよ それ大事?

奥平 茜

男女差が 減って増える 選択肢

梅谷 碧

性別で 差別区別は 軽べつだ

奥村 統磨

夢運び そこにいらぬ 男女の差

江崎 悠莉

将来は 共働きで 家事半分

乙子 理央

パパすごい 家事ができちゃう ママみたい

大塚 彩

女の子 控えめ理想 それ問題

片桐 菜月

男女差が 悪くなり自分の 個性増す

大友 春花

生きやすい 誰でもみんな 思えるように

加藤 実来

こげても 気にせず食べる パパのご飯

岡部 優菜

女でも! 会長こなした 友の母

金子 真綾

いいんだよ じぶんらしさを だしていこう

奥井 小夏

生き生きと 個性を生かす 共同社会

兼松 祥平

幸せは みんなでつくる 同権だ

奥田 光城

公園で イクメンデビュー 僕のパパ

川合 佑真

ご飯なに？ 今日のカレーと 父が言う

川合 力也

僕、私 家事する、働く 作る未来

(匿名希望)

男だろ 女の子でしょと 区別なし

川内 誠仁

味はどう 聞いてきたのは 父の声

木村 春香

増えてるね 結婚条件 イクメンが

川口 真依

父を見て 育った子どもは 家事上手

金城 麻帆

将来は 何の職でも かまわない

川村 一朔

家事育児 家族分担 会話増え

久野 真子

比べちゃう はやりの育メン 寝ころぶ父

河村 紗衣

皿洗う 父の背中では 家事メンだ。

黒田 沙紀

家事分担 疲労も苦労も 分かち合う

岸 雅也

人の目で 自分の個性を 捨てないで

近藤 千華

男女差で 未来の光 消さないで

岸川 紗千

晩ご飯 父と作って 母を待つ

近藤 ひなた

差別なし 男女対等 生きていく

木俣 杏樹

保護者たち ママ友じゃなく パパ友だ

境田 優

イクメンと働く女性がいる社会

佐々木 浩志

家事全般 手伝う父は妻思い

須口 直哉

決めつける 壁を破って 自律する

篠原 真衣

みじん切り 教えてくれた おじいちゃん

鈴木 あずさ

やりたいと 思った自分を 大切に

清水 省吾

雪の日に 備えてタイヤ 替える母

鈴木 暉大

發揮する 男女一人ひとりの その個性

清水 翔太

家事・仕事 両立させる 父と母

大和 幹汰

分ける壁 作っているのは その心

荘田 瑠太

選択肢 増えて減ってる 男女差が

田中 洸陽

男女の差 へってなくなる こようの差

新谷 諒

男女差が なくなる世界に 希望あり

谷川 ヒカル

助けあおう 相手はだれでも パートナー

杉山 修太

立ち止まり 手を差し伸べて ありがとう

谷口 琴美

国会に だんだん増える 女(性・政)党

杉山 陽紀

看護師の 夢を胸はり 語る兄

柘植 省吾

週末のメインディッシュは 父の味

徳永 朱華

職業に 選ばれなくて 選びたい

(匿名希望)

育事体 たくさんとって イクメンに

中川 帆歩

守ろうよ 自分らしさと 選択肢

野呂 弥生

料理男子の 息子のおかげで 家事がへり

長丁 美空

「かっこいい」 誰にとっても ほめ言葉

長谷川 樹乃

イクジイを 目指してまずは イクメンに

中根 拓海

俺の夢 家事も手伝う いい親父

長谷川 将誉

女性でも ドリル片手に DIY (Do it yourself)

中根 陸翔

私たち 性別違えど 権利は同じ

早原 豊

男女とも 暮らしを補う パートナー

中村 佑衣

私より さいほう上手い 男の子

原田 佳奈江

めずらしく せんたくものを たたむ父

中村 亮介

家事分けて 笑顔増えてく おかあさん

治 明里

男女の差 言ってるあなた 古い人

丹山 慧

母は言う 主婦に休みは ないのだと

平野 奨真

「男だろ」毎度のセリフ だからなに？

(匿名希望)

パパ育児 笑顔が増えた 家族の輪

前原 朱子

こなしてる 炊事せんたく 家事おやじ

福岡 玲二

男女差別 なくせば広がる 無限の力

松尾 有紗

すごいだろ 自分でできた ボタンつけ

藤井 航平

家事をする 夫とつまが よこならび

松澤 麻佑香

わが家では みんなで協力 分担表

藤白 綾乃

夢・希望 関係ないよ 性別は

松原 猛

また一つ 花のつぼみが でてきたよ

藤本 可奈子

白バイ乗る わたしの姉は 光ってる

松原 由樹

いくめんパパ 頑張るママは 管理職

船倉 くるみ

イクメンが 結婚相手の 条件だ

三浦 志歩

堂堂と 自分らしく 生きようよ

前岩 佳奈

自分がね 信じる道を 生きていく

三浦 祐香

一人ひとり みんなちがって みんないい

前岩 佳奈

学級委員 「私がやりたい」 増やしてこ

三浦 優斗

父は言う 第2の人生 主夫になる

六車 公佑

泣く子供 母はなぐさめ 父よそ見

吉田 将人

最初から 決めつけないで 出来ること

元川 稜也

父の日に 黒いエプロン プレゼント

六角 美結

父母で レシピ片手に クックシエア

本山 泰羅

おままごと パパの役目は 家事育児

六角 美結

おはようと 声をかけると こんにちはは

森永 聡

未来の僕 親を見てると 見えてくる

和田 彪雅

一人ぐらし 「家事できない」と 困る兄

山口 愛加

家庭内 役割変えて 気づく事

山下 陽海

家事分担 家族は一つの チームだよ

山田 綾夏

子育てし ならうよステキな イクメンに

山田 綾夏



【十周年記念 特別賞】

伊興田 廣隆 さん

水野 健三 さん

長谷川 知子 さん

小沢 竹朗 さん



※作品は、十周年を記念して

制作して下さった小沢さんの作品

第十回 男女共同参画川柳優秀作品集

発行 キラツ☆とよた

(とよた男女共同参画センター)

〒471-0034

豊田市小坂本町1-25

(豊田産業文化センター2階)

電話 0565(31)7780

FAX 0565(31)3270

URL <http://www.hm4.aitaine.jp/~clover/>

E-mail clover@city.toyota.aichi.jp

平成二十五年三月 発行